

大成記疑問

上

| | | | |
|----|----|---|---|
| 庫 | 文 | 閣 | 内 |
| 五〇 | 四二 | 和 | |
| 四 | 二九 | 書 | |
| 架 | 冊 | 號 | 類 |

| | | | |
|------|-----|--------|--|
| 内閣文庫 | | | |
| 番號 | 和 | 24129 | |
| 冊數 | | 2(1) | |
| 函號 | 150 | 21 | |



大風記卷之二

親高若

親高若

親高若

親高若

親高若

親高若

親高若

親高若

親高若

大成記卷之一

△ハ本文

ハ中問ノ文ヲ略スルナリ

親氏君ノ條下

經基村上天皇天德五年初テ源姓ヲ給フ

△是世本系圖ノ説ナリ御系圖ハ天德二年始賜源姓トアリ

日本紀畧天慶三年ノ内ニ源經基トアリ此説ニ據レハ賜源姓

支ハ天德五年ヨリ前ノト見ヘタリ然レハ天德五年トノ説ハ

一定ニ難シ

○義重四男アリ一男ヲ太郎三郎義範ト云ニ男ヲ太郎

義俊ト云大新田ト号ス三男ヲ義兼ト云小新田ト号ス

四男ヲ義季ト云徳川四郎ト号ス

御系圖ニハ義重ノ一男義俊新田二男義兼新田三男

義範新田太四男義季徳川五男經義六男義光七男

義佐トアリ兄弟ノ次第モ違ヒ又男子ノ数モ多クアリ

大成記別ニ慥ナル據アルヤ

○親季其子有親ヲ携ヘ上州世良田ヲ避リ相模國

藤澤清淨光寺ニ入

△三河記并御系圖等ニハ有親公親氏公御父子世良田ヲ

御出三州松平郷ニ移リ給フトアリ松平太郎左衛門家

書付モ同趣ナリ然ルニ藤澤遊行寺ノ書付ニ親季御

父子遊行ヲ御頼ミニテ隨逐セラル永享年中東海道

修行ノ時松平殿ヨリ遊行弟子ノ内ヲ養子ニ望ミ遊行ソ

有親ヲ養子ニ遣ヒ親季ヲ徳阿弥陀佛ト云月親ヲ長

阿弥陀佛ト云有親ノ御子松平太郎親氏ヲ法名頃阿弥陀

佛ト云トアリ此書付ニ後ニ作リタル物ト見ヘテ大ニ相違也

松平ハ御入アリタルハ親氏公ナリ是ヲ徳阿彌ト申タリハ

慥ナル儀ナリ藤澤寺ノ書付箇様ノ明白ナル相違アル其

餘ノコトニ信用シカタシ三河記御系圖等ノ説ノ如ク藤澤寺

ハ来リ給ハ有親公親氏公御父子ナルハ親季公ヲ徳阿弥

ト申タルトノ相違カラハ遊行ニ隨逐トノ異説是亦藤澤寺

書付相違ト見タリ然ルニ大成記ニ三河記等ノ説ヲ捨テ

藤澤寺ノ説ヲ取ルコト不審但し外ニ慥ナル據アル歟

○親氏公永享元年ニ三河國酒井ノ郷ヨリ同國松平ノ郷ヘ移リ給フ云々

△是御系圖ノ説ナリ三河記ニ貞治年中ニ松平郷ヘ御入ト

アリ是ニテハ永享元年ヨリ六十餘年前ナリ此兩説外ニ

慥ナル據ヲ知ラザル故正説極メカタシ然レトモ御系圖ノ

通り永享元年松平ノ郷ヘ御入トスル時ハ未ヘツリテ年数

短シ即チ此書ノ内信光公ノ條下ニ寛正六年京都ヨリ

信光君ヘ書狀シ與フ時ニ信光君ヲ和泉入道ニ号ストアリ

此寛正六年ヨリアトヘツリ永享元年ニテ其間三十年ナリ

其内ニ親氏公松平ニテ泰親公誕生泰親公ノ御子信光公

誕生アリテ既ニ入道シ給ヒタルホトノ間ハナキツナリ又

信光公長享二年ニ御卒去アリシコトハ三州信光明寺

御菩提所ニテ慥ナル定事アリ此御卒去ノ年ハ諸説尤

大成記モ異説ナシ永享元年ヨリ長享二年ニテ六十年也

其内ニ泰親公誕生ニテ其御子信光公ニ四十八人ノ御子アリ

既ニ入道シテ御卒去ナレハ其間六十年ノ内ニテハアルニシキ

ナリ然レハ三河記永享元年ヨリ前貞治年中松平郷ヘ

御入トノ説年間サモアルヘキ歟然レトモ此時代ノコト外ニ慥ナル

據ナケレハ兩説ヲ存スヘキコト歟尤御系圖ノ説ニハ極メカ

卷之二

○信忠公左京ト云後ニ藏人ト称セララル

△三州妙心寺ニ信忠公ノ御證文アリ是ニハ左近藏人信忠トアリ大成記ニ左京後ニ藏人ト称セラルトノコト不審

○清康君五六歳ニナリタニハ舊臣老士ノ者共古今治乱ノ事ヲ談ラセ聞カセ給フ一イツモ祇候ノ者共暫クモ見ハサレバ安否イカト問ハセラル若シ討死ヲ聞セテハ泣悲シニセ給フ

△清康君御幼年ノ比御父信忠公ノ御時ハ合戦ナレ祇候ノ

者討死ノコトイカ

○安部大藏其子が大逆ヲ聞テ大ニ驚キ免レサラニテ恐レテ急ニ岡崎ニ歸リ詐テ申スハ清康君ハ敵ニ力カレ給テ吾カ軍退キ歸ル敵ハ追来ラニ此危急ノ時ニ當リ助ケナキ孤城ニ幼君ヲ置テ坐ナカラ大敵ニ襲ハレ存亡ハカリガタシム大藏ハ嗣君ヲ奉シテ勢州ニ赴ク一説曰大藏其子ノ大逆ヲ恐レテ自殺セントス藏人信孝コレヲ制シテ止リ塾居セリ

△此一説ノ方諸説ニ近シ本説ノ大藏免レサラニテ恐レテ岡崎ニ歸リ詐リ申トノ説不審大久保甚右衛門三河記ニ其後大藏

山傳シテ遠州へ遊ル。廣忠君伊勢へ御浪人ナサレ、時池經
射へ出テ御手打ニカ、リタキ由申上ノ取指シ溝へ捨テ首ソ
延テ居タルソ。廣忠君御扇ニテ頸ソニツ三ツ御打ナサレ御
ユルサレトアリテ伊勢へ御供スル由又同彦左衛門三河記ハ
内膳殿岡崎ソ押領シテ。廣忠君ソタテ出し給フ時御譜代
衆モ色ノ心也。阿部大藏申ケルハ世悴コソ氣違ヒ
吾等ニ於テハ少モ御無沙汰ニ及ハズ是非御供申サントテ
御供申シ伊勢國へ落行ユ。又植村家譜ニ森山ニテ其時
大藏勿害可致ト申ソ在合者共申ハ其方儀近心無之段
無紛向勿害ソ止。廣忠君へ御奉公申上重テ御用ニ相立

一命ソ捨可然之由制スルニ付大藏理ニ屈シ勿害ソ相止ユ。其外ノ
諸書同趣ナリ摠シテ此節ノ夏愷ニ知レタシ然レトモ本文ノ
大藏免レザラニコトソ恐レテ岡崎ニ歸リ詐リ謀テ嗣君ソ奉
シテ勢州へ遊ルトノ説不審大藏死ソ恐レテ詐リ謀ル者ナラハ
以前ニ弥七ニ遺命ヒシ詞トモ相違シ又嗣君ニ從テ勢州ニ往者
大藏一人ニアラス大藏ハ弒逆ノ者ノ又ナレトモ御譜代ノ老臣トモ
其私ナリ志節ナルソ疑ハスレテ嗣君ソ説シケルニ果シテ大藏
始終後ニ奉リタルソ見レハ其身免レサラニソ恐レテ詐謀スル
者ニハアラズ

又御系図ニ 廣忠君勢州へ遊レ給フ森山ニテ 清康君

御逝去ノ翌日六日ノコトナリトアリ是モ不審大久保家ノ三河
記ハ伊田合戦ノ後ノ事ニテ内膳信定調畧シテ 廣忠若
ソタテ出シタル由此書ニモ伊田合戦ノ時 廣忠イニ久岡崎ニ
御坐アリシト一説アリ此時分ノ夏迄殆どナラザルコト多シ
其内三河記ノ説少ツノ相違アルヘケレトモ別シテ古キ書ニテ其
家ノコト多ケレハ大様ハ是ニ從フヘキ歟今三河記ヲ以テ彼是難
見ルニ大藏森山ニテ弥七郎が弑逆ノ時暖切ニトヒシヲ在合フ
輩方し止メ大藏夫ヨリ一旦山傳シテ遠州ヘ遊レ伊田合戦ノ
後出來リテ罪ヲ謝シ群臣ト共ニ評議シテ勢州ヘ御供申名
ナルベキ歟

○安部四郎兵衛十二月六日髪ヲオロシ僧ニナリ七日ニ今橋
行テ大藏カモトヘ文シヤリ

△安部四郎五郎所テアル書付ハ今橋ニテ十日ニ罷着リ方ニ
御戒名ヲヒロメ申ナリ就中勢州ヘ入リシタテ兩度ニテ大藏方
申合ユリ然レハ此本文ノ七日ハ十日ノ誤リナルヘシ又勢州ヘ入リ
兩度遣シタルトアルハ其後ノコトニテ十日ノコトニテハアルニヒキカ

織田信秀安城ヲ攻ル事

○天文九年六月六日織田信秀安城ヲ攻レ松平利長
同忠次下知シテフセギ守リ信秀引退ク

△諸書ニ安城落城ノコト見ズ然レハ大成記ハ天文九年城兵

能防テ織田方引去同十三年ニ落城トアリ一説ニ天文九年ニ
同城主長家其外松平利家モ討死シ安城ヲ織田方へ取ト
○天アリ大成記ニモ此九年安城改ニ城主長家討死其上利長
等ニテ打死トアリ然レハ此時落城ニテモアルハキ次大成記
天文十三年安城落城時安城守將ノコトナシ十三年落城
トモ極メ難シイカバ

織田信秀安城ヲヌク事

○大原左近衛門近藤傳次郎岡崎ノ城門ヲ出時門ヲ
守ル者ト口論シ其首ヲキリ直ニ織田信秀カ軍ニ入云云

△三河記等ノ趣ハ大原近藤其外五三人是モ酒井將監ニ同意シ

ケルが大原近藤城門ヲ出時大原門ノ暇ニテ一人ヲ突卧テ
將監ト共ニ織田方へ與シタル由ナリ是ハ大原ノ廣忠君ヲ背
キタルシルシニ一人ヲ突首ヲ取テ行ケルト見ヘタリ大成記ニ番
人ト口論シ首ヲ取シトノコト如何

廣忠君安城畷ヲ攻玉ノ事

○本多吉左衛門馬^{志豊}シカヘシテ攻戰フ云云

△志豊此時殿シテ討死ナリ大成記ニ討死ヲ書セザルコト如何

廣忠君松平清定ヲ討ツ事

○松平内膳正清定ハ信定ノ子ナリ天文十四年上野ノ城ニヨリ
防キ戰ノコトヲナス酒井將監上野城ニイリカシ合ス

岡崎ノ兵一戦ニ及ズ死スル者数シラズ明年丙午九月
廣忠君又上野城ヲセメ玉フ
七郎右衛門忠世十五歳戦功アリ其後將監罪ヲ謝シ降
参清定モ又降服ス

△櫻井松平系圖其外ニ清定ハ天文十二年十月三日ニ卒ストアリ
然レハ天文十四年五年ニ上野城ニアリタルハ清定ニテハナキハツセ
酒井將監ハカリ上野城ヲ守リタルハ安部忠政カ年表ニ天文
十七年松平与一郎カ山中城ヲ攻ルトアリ此与一郎トハ系圖ニ
清定モ其子ノ家次ツモ与一郎ト云トアレハ是ハ家次カコトカ
又此時大久保忠世十五歳ニテ戦功アリトハ相違ナレハ系圖ニ

忠世カ十五歳ノ時ヲ戦功ハ渡村ニテノ事ナリ十七歳ニテ山中城
ヲ攻ル時忠世一族共ニ敵ヲ撃破ルトアリ大成記ニ十七年山中
城ヲ攻給フコトナシ然レハ十四年ニ与一郎家次カ又ハ將監ヲ守
上野城ヲ攻テ利ナシ十七年ニ与一郎家次カ山中城ヲ攻テ家次
降服セシナルヘシ大成記ニ十四年ノ明年トアルハ十七年山中城ヲ
攻レコトヲ錯ル歟

植村新六岩松八弥ヲ殺ス事

植村新六家政城ニ登リ橋ノ上ニテ行逢ヒスナハチ是ヲ捕テ
相共ニ湟ノ中ニ落松平藏人信淳鎗ヲ投ケ来リ是ヲ刺
殺ント云フ
新六遂ニ八弥カ首ヲキル

△此八弥ヲ殺シタル新六ハ家政カ父采安ナリ家政ニ非ス植村
系図ニ前ニ森山ニテ安部弥七ヲ殺シタルモ後ニ八弥ヲ殺シ
タルモ采安ナリトアリ然ルニ植村家譜ニ采安ト家政カトシ
雜ヘ書テ八弥ヲ殺シタルハ家政ト見ユ是錯誤ナリ前ニ采安
カ弥七ヲ殺シタル時十六歳ト系図并植村家ヨリ出タル書付ニ
アリ此八弥ヲ殺シタル年次ハ慥ニ知レザレトモ藏人信孝イニダ
敵ニナラザル時ナレハ天文十四五年ノ比ナリ森山ノ變ハ天文四年
ニテ采安十六歳ノ時ナレハ天文十四五年ハ十六七歳ニ過ズ然レハ
此時其子アリトモ成人ニテハナキ苦ナリ大成記ニ家政トスルハ
相違ナリ

卷之四

松平藏人信孝系地没収ノ事

○同年九月 廣忠君松平外記忠次松平喜藏鳥居源七
郎ヲシテ信孝ヲウタヒム然レトモ利アラズ

△是日記ニアル三州渡河内ノ戦ナリ此時 廣忠君兵ヲ渡河内

ニ發シテ信孝ト戦ハシム味方松平外記松平喜藏鳥居源七
郎討死外記ノ敵鳥居又二郎討取源七ノ敵松平清兵衛討
取味方利アラズ兵ヲ引テ歸ル云ハ是慥ナル説ナリ大成記是ヲ略セル
ト如何

今川ノ援兵尾張ノ兵ヲ討退ル事

○天文十七年織田彈正忠尾州ヲ癸メ三州安城ニ至ル今川義元
朝比奈藤三郎ヲ大将トメ駿州遠州ノ兵ヲ率テ三河ニ至リ
臨濟寺ノ長老雪齋監軍タリ一期モスレテ小豆坂ニ相
逢フ一尾州ノ兵利アラズ

△大成記是ヨリ前天文十一年八月織田信秀兵ヲ癸メ三州ヲ
攻ム廣忠君援兵ヲ今川義元ニヨヒシラ義元臨濟寺ノ
長老雪齋ヲ大将トシ岡崎ヘムカハシム一兩軍期モスレテ
小豆坂ニユキ合ス又此十七年ノ所ニモ期モスレテ小豆坂ニ相
逢トアルコト不審是ハ小豆坂ノ合戦ハ一度ナルヲ或ハ天文十一
年又ハ十七年ノコトニスル兩説アリテ少ツノ異説アルヲ以テ大成記ニ

兩度ノ合戦トスルナルヘキ歟信長記ニモ天文十一年ニ小豆坂合戦ノ
コトアリテ十七年小豆坂ノコトナシ阿部忠政年表ニモ十一年小
豆坂合戦十七年鳴原西野合戦トアリ三河記ニハ十六年十七年
ノ内ト見ヘ松平記等ニハ十七年トアリ是皆一度ノ合戦ヲ十一
年或ハ十七年ノコトニスル兩説ナレトモ十一年十七年兩度ニ小
豆坂ニ戦ヒタルトノコトナシテ大軍兩度ナガラ不期シテ同所ニ
出合タルコトハアルニヒキコトナリ大成記兩度ノ事トスルコト不審

○天文十七年織田信秀荒川新八ヲシテ三州ヲ攻シム

○廣忠君重ノ原ニテ拒キ戦フ阿部忠政多ク敵兵ヲ射

殺ス云云

八草ノ城主中條氏梅坪ノ城主三宅氏敗軍ノ事

○天文十七年 廣忠君兵ヲ斃シテ八草ノ城主中條氏ヲ攻給フ
時中條氏モ亦岡崎ノ伺ントメ軍ヲ出ス兩陣鳴ノ原ニテ
相逢テ合戰

△右ニテ條ニ重ノ原鳴原ノ兩所トシテ別ノ戰トスルコト不審諸記ニ
鳴原ヲ重原ト書テ戰ニ少ツノ異説アル故ニ兩所ノコト、スル歟
今三河ニテ尋ルニ鳴原ハアリテ重カ原ト云所ナシ鳴原ヲ訛テ
シゲ原ト云者アル由ナリ依之重原トモ書タル歟大成記ニ重カ
原ニテ阿部忠政多ク敵兵ヲ射タルトアレドモ忠政年表ニハ

天文十七年鳴原合戰敵中條トアリテ其外ノ戰ノコトアレハ重原ノ
コトナシ然レハ此ニテ條ハ鳴原ニテ中條ト戰フ時敵ノ部將荒川
新八モ來リ攻ケルヲ阿部忠政多ク敵兵ヲ射タルコトニテ屯
兩所ノコトニハアルニシキ歟

卷之五

大神君始テ師ヲ西三河ニ出し給フ事

○永祿元年、——先鈴木日向守ヲ擊シトテ寺部ニ軍ヲ
出し玉フ酒井石川先鋒トシテ急ニ攻ム城兵亦能防キ戰フ
本多作左衛門重次弟九藏重玄先登シテ攻入ル重次敵ニ
人ヲ斬テ劊ヲ被テ出ツ重玄遂ニ戰死ス城兵本多カ勇ツ

感シテ重玄カ首ヲオクルト一松平次郎右衛門重吉苦戦
シテ割ヲ被ル次男半弥重茂及家士名倉惣助等戦死ス
我兵遂ニ戦克テ北ヲ追テ首ヲ斬コト百餘級火ヲ外郭ニ
縦テ歸ラセラル云云

△此文ノ如クハ城中へ入テ大ニ戦ヒアリシト見ユ是則家忠日記
増補ノ説也 但本多カ 此戦ノ事古記ニアルマイニダ見當ラス三河
記尾張御年譜其外ノ記ニハ城主鈴木日向守畏テ出城外
ニ焼テ歸ルトアリ是御初陣ノコトナレハ是ホドノ戦ニ殊ニ敵
ノ首百餘打取タルコトナルシ古記ニ漏スヘキ様ナシ本多作左衛門
傳ニハ此時分ノ戦ノコト見ヘサル故知レ不能見ノ松平系圖ニ松平

能見ノ松平
系圖松源

譜系アリ
此松源譜系
四十年ホト出
タル物ナリ然
レハ慥ニ物ニ
アラズ

次郎右衛門重吉軍功アリ重吉カニ男半弥討死ナリ然レハ少ノ
戦ハアリタル歟不審或記ニ
神君兵攻鈴木日向守所籠之寺部城放火于下寺部此時松平
重吉有戦功ニ男般若之助討死トハカリアリ徳川記・鈴木碎
粉骨防戦トアリ是等ノ説并家忠日記後ニ増補スル類ハ
信用シ難シ大成記外ニ慥ニ據アル歟不審又按スルニ此後度ニ
寺部ヲ御攻アリシコトナレハ松平重吉ノ子ノコト若ハ此後寺部
ニテノコトナルヘキ歟

○又廣瀬ノ城ヲ攻一尾州ノ援兵城外ニ出テコレヲ防ク津田
兵庫神戸甚七先クテ進ム大久保忠世津田ヲ撃テ首級

ヲ獲タリ江原某神戸ト相戦フ江原カ家丁神戸ヲ殺ス
城兵敗し走ル松平玄蕃清善同勘解由衆軍ヲ指揮
云云

参遠平均記 △此條是ヨリ下ニ至テ参遠平均記ノ説ナリ平均記虚妄ノ

ト多ケレハ此委細ノ説信用シカタシ大久保忠世カ傳ニモ

津田兵庫ヲ討タルコトナシ大久保家ノ三河記ニモ此事ナシ

松平清善カ傳ニモ此ト知ノコトナシ参遠平均記ニハ梅坪ヲ

御初陣トス是ニテ先相違見ヘタリ三河記ニハ寺部ノ攻ニ

梅坪ヲ御攻城ヨリ出テ防キ戦フトイヘトモ何カハコトユキ

付入ニシテ外構ヘ追入ニ三ノ凡ニテ焼拂数多討取次ニ廣瀬

ノ城コロモノ城ヘ押寄給ヒケレハ城ヨリ出暫ク戦ヒケルカガ押

立ラレテ引テ入ニ押付テ数多討取給ヒ構ヲ放火シテ引入セ給フ

トアリ委キコトハ知レサルト見ヘタリ平均記ノ説を信用シ難シ

○兵ヲ収テ退クコト十町ハカリニシテ嚴ク備ヲ立テ見メクラセハ

寺部ノ鈴木氏奉母ノ板倉氏及ニ丹家中島寺ノ城ト共ツ

出シ屯シ聚テ吾カ軍ノ向ツ伺ヒ撃ントス石川安藝守清兼

進テ申ケルハ吾君ノ初軍兩日ノ捷軍大慶此ヨリ大ナルハナシ

勝ツ保ツヘシ仕損スニシトテ旅ヲ整テ旋ル

△此大成記ノ文全ク平均記ノ説ナリ古記ノ中ニ見ヘス摠而相違ノ

平均記ノ説信用シガタシ

○明年丁巳元信ヲ改テ元康ト号シ奉ル

△此時藏人ト申し奉ルコト慥ナリ藏人元康ト号シ奉ルト書スヘ

キ坎

○永祿三年今川義元騎兵四万ヲ率テ五月十七日参州池鯉

鮒ニ至ル

大神君兵ヲ斃シテコレニ從フ十八日尾州知多郡阿古居郷ニ

往テ久松佐渡守カ館ニ至リ母君ニ謁シ玉フ

△久松傳ニ三月

今年五月今川義元尾州出張

大権現欲救大高城処見之時渡御于知多郡之坎入于阿古居館ト

アリ然レハ尾州ニ至リ給フハ義元ヨリウキ三月ニ至リ給フナリ大成記

五月十八日ノ説不審

○異父弟源三郎

豊前守 義勝

△世本ノ久松系圖ニハ源三郎康俊或ハ勝俊豊前守トアリ久松家ノ

傳ニハ源三郎勝俊トアリテ任官ナシ源三郎養子勝政ハ豊前守

トアリ然レハ勝俊ハ任官ナキト見ヘタリ又大成記ニ源三郎ヲ義勝

トスルコト據アルカ

今川義元軍ヲ尾州ニ出シ使

大神君取丸根城給フコト事

○同年五月

大神君ヲシテ丸根城ヲ攻シムコト石川日向守ニ命シテ

軍ヲ三部ニ分チ一軍ハ正兵トシ一軍ハ游兵トシ一軍ハ麾下
ヲ護衛セシムヘシ所謂松平又七郎姓名二百人
ハカリ畧之

△惣シテ此節ノ下委キユト知レタシ諸記何レモ軍配軍士ノ姓名
ヲ如牒委細ニ記シタルハナシ独リ參遠平均記ニ一ト記セリ大成
記コレニ後フ然レトモ諸書ニナキコト妄作ノ平均記ニアルハカリテハ
是亦信用シカタクコトナリ

大神君信長ト盟タニフ事

○同年正月

大神君清洲へ御出アリテ盟フヘキヨシ仰遣ハサレケレハ
信長大ニ悦ビ一ト品ヲ用意アリ水野下野守モ来會ス

大神君清洲へ入セラル城門ニテ御人数ヲ見物セシト信長ノ
士卒トモ立サワキケルニ本多平八郎忠勝十四歳ニテ御供ナリ
ケルカ御馬ノ先へ進ミ長刀ヲ振り高声ニ言リケルハ参州ノ
元康参ラレタリ汝等カクノコトノ無礼ニ立サワクハ何支ソヤト
怒リケレハ諸人皆平伏メシツニリケリ信長ニ九ニテ出テ迎レ
互ニ御礼アリテ本丸へ入セ給フ一植村新六家政御カシ
捧テ座ニホリ近ク侍ルシ番ノ任トモ禁制シケレハ家政ア
ラカニ元康ノ家臣植村新六ト云者ナリ何故ニカクトガムル
ト言ケレハ信長聞ツケ家臣トモニ玉ヒケルハ我久シク植村ガ

名ヲ聞クニコトニ勇士ナリ汝等トカムヘキ者ニアラスト
信長ノモテケルハ今度和談ノ事領状シ給ニ満足コレ過

大神君拜謝シタニテ靈社ノ起請文ヲ持出

大神君信長互ニ血判セラル

△此時

神君清洲ノ御越ノ説諸記共ニ當年ニモ未年ニモナキコト

テ独リ参遠平均記ニ御和談ノ翌年正月清洲ノ御越

御會盟ノコトアリ是偽説ト見ヘタリ大成記此説ヲ引用ル

コト不審諸記共ニ御和談ハ水野下野守扱テ御誓紙御取

カハシトアリ又植村ガコトハ植村家譜ノ説ニ御和談ノ後始テ清

洲ノ御越ノ時ノコトアリテ其時節シレズ然ルシ大成記ニ此所

引合スルコト不審本多忠勝コトハ本多ノ傳ニナシ摠而参遠平

均記ハ偽説アル書ナレハ尤信用スヘカラス此節御和談御會盟

アラハ兩國ノ境ニテ其儀アルヘシ是ハ誓紙ヲ御取カハシニテ相調

タルコトナリ何ソ

神君敵國ト會盟ノタメ早速清洲ノ御越アルヘキヤカハル偽説ハ

物躰ナキコトナリ

大神君信長互ニ血判セラル信長モ血判ヲ加ヘラル小キ紙ニ

牛ノ字ヲ書テ三ツニ切り三人トモニ水ニテ吞給フ

或老人ノ説ニ
参遠平均
記ハ此改ニ
藤ト云軍法
有テ信長
神君物語
アリテ
神君伊東
ノ軍法御
傳授アリシ
ト云コレヲ書
キタメニ書
集タル記
ハト次是モ
偽説ナルヲ
書キ入レ後
證トモトノ
ナレハト云

△此事何ノ舊記ニアルマ不審唐ニテ諸侯ノ會盟ニ牛ヲ殺シテ
血ヲ軟ルコトアリ日本ニテ誓紙血判ノ外ニ終ニ牛ノ字ヲ切テ
吞ム法式ヲ聞カ勿論古記ノ内ニシテ見ズ恐クハ好事ノ者ノ
偽説ナルヲ大成記ニ引用スル歟 御年譜附尾ニホ牧ニテ和成ト
アリ是亦偽説ト見ヘタリ

東條合戦好景打死ノ事

○好景カ家臣近藤弥右衛門富永孫大夫ト戦ニ首ヲ取

△此文ノ通りナレハ近藤ハ富永カ首ヲ取ト見ヘタリ是相違ナリ
富永系圖ニ孫大夫ハ近藤弥右衛門ト組テ近藤ヲ刺殺シ首ヲ
取孫大夫後ニ
神君ニ仕ヘ奉ルトアリ

長澤城陥ル事

○大神君三千餘騎ニテ牛窪ハ御働キ歸路長沢御通り

△今年牛窪ニ御働ノコト請記ニ見ズ独リ御年譜附尾ニ此夏
公率三十餘騎出岡崎押通長沢働牛久保トアリ附尾ハ御年
譜ノ後ニ書集メタルモノニテ尤慥ナラス他ノ記ニナキコト附尾ニハ
信用シカタシ

卷之六

鷲殿長照ヲ搦メ捕ル事

○永祿五年壬戌ノ春

大神君元康ノ御名乗ヲ改メ給ヒテ

家康君ト申奉ル

△永祿五年春トハ相違ナリ永祿六年六月ニ松平王殿助ニ檄

タル御書ニ元康トアリ然レハ六年ノ夏ニテ御政ナキヲ見ヘタリ

御年譜創業記等ニ永祿六年秋御諱ヲ政メ給フトアリ是

ナルレシ是亦參遠平均記ニ伊東ト云軍者家ノ字ノコトヲ申上

永祿五年二月廿四日ニ御政トアリを偽説ナルレシ大成記此年

月ニ據ル歟不審

○氏真カ大将鶺殿長持西郡ノ城ヲ守リケルヲ松井左近

忠次ニ命セラレ三月十五日ノ夜ヒソカニ西郡ノ城ニ忍ヒ

入テ長持ヲ刺殺シ其嫡子長照二男藤三郎スヲ生捕

△此長持ヲ殺シ其子長照藤三郎ヲ生捕トノコト諸記大成記ト

同シ説多シ然レトモ鶺殿ノ傳ト相違ナリ鶺殿傳ニ長持カ子ハ

藤太郎長照ナリ此時生捕リタルハ長照ノ二子ナリ長持此時ハ

西郡ニ在ガルト見ヘタリ長照ハ落行其子三郎七郎十七歳其

弟藤三郎ヲ生捕タルトアリ

家忠日記ノ説
鶺殿傳ニ近シ

○是年三郎君五歳ニ成給フ信長岡崎ニ使ヲ遣ハシ

三郎君ヲ婿ニシ給ントアリケレハ

大神君婚姻ノ御約束アリ

△三郎君ハ永祿二年己未ノ御誕生ニテ

大成記ニモアリ是年 永祿五年 壬戌

ニハ四歳ナリ又御婚姻ノ御約束ハ諸記共ニ永祿六年ナリ大成記

相違

東條ノ軍功ヲ賞シ給フ事

永祿六年閏十月

○松井左近忠次東條ニテ軍功ナルニ依テ采邑ヲ加増シ

且松平氏ヲ賜フ

△松平忠次系圖ニ永祿七年ニ松平氏ヲ被下トアリ

卷之七

長澤城攻落ス事

○永祿七年三月

神君牛久保ニテシバク今川氏真ト合戦シ玉長澤ノ城ヲ攻落シ本多作左衛門内藤三左衛門ヲメ長澤城ヲ

守ラシム

△今川氏真牛久保ニ来ルハ五月ナリ三月ニアラズ三月ニ氏真ト

戦ヒ玉フトノ更不審又此時長澤城ヲ攻落シ玉フトノ旣徳川記ノ

旣旣ナリ然ルヲ大成記ニ没之ト不審是ヨリサキ永祿四年ニ長

澤ヲ攻取玉フト大成記ニモ見ヘタリ今又攻取給フトハイカバ又

○長澤城ヲ攻落シ本多内藤ニ守ラシメタルコト本多内藤ノ傳ニ

見ヘズ又按スルニ大成記永祿八年ノ内ニ内藤三左衛門十七歳ト

アリ然レハ今年ハ十六歳ナリアリ若年ノ有ニ城ヲ守ラセラレ

トニキ次

○今川氏真飯尾豊前守ヲ殺ス事

○同年永祿八年豊前守カ家臣江馬安藝守同加賀守志ヲ

神君ニ通ス一書ヲ賜テ飯尾カ舊領ヲ安堵セシム

兩人ノ江馬御方ニ参リ御書ヲ賜リシハ永祿九年ノコトナリ

神君三河ノ三奉行ヲ定メ給フ莫ノ内

○神君本多作左衛門高カ左近天野三郎ニ命シテ三河ノ

三奉行トシ制法ヲ定メ訟ヲ聽シム一ノ天野ハ生レツキ思慮

深クシテ時世ニ阿リ諛テ決断スルコトヲ好ニス時ノ人其一

決セザルコトヲ諱ル

△是ハ世ニ言傳ル佛高カ鬼作左トテチヲナシノ天野三兵ト云ニ

依テノ評ナルヘシ此世諺ハ天野カ理非決断ナキヲ云ナルヘシ思慮

深ク時世ニ阿リ諛フコトヲ諱ルトノ説イカニ

神君三河守ニ任シ給フ事

○同年十二月

神君從五位下ニ叙シ三河守ニ任

△創業記考異ニ是ヨリ

勅命ヲ以テ徳川ノ號ニカヘリ給フトアリ是慥ナル證アリ尤重キ

御事ナルシ何トテ大成記是ヲ書セザルヤ

武田信玄志ヲ

神君ニ通スル事

○永祿十年信玄山縣景仲ノ岡崎ニ遣メ

○神君告テ曰遠州ノ地大堰川ヨリ西ヲ限

△神君信玄ト大井川ヲ限テ西ハ

神君御働アルヘシトノ御約束諸記何レモ永祿十二年十二月ノ

コトアリ又此時信玄ヨリ山縣景仲ヲ使ニ來シタルトノ支諸記

見ヘズ独リ參遠平均記ニアリ是亦平均記ノ偽託ナルヘシ但

大成記外ニ慥ニ據アル歟

江馬安藝守同族加賀守ヲ刺殺ス事

○今川氏真兵ヲ率テ濱松城ヲ攻ム江馬安藝守同加賀

守防キ戰フコトアルハス妻子ヲ出メ質トス

△江馬家ノ書付ニハ氏真ヨリ松下等ヲ遣シ濱松城ヲ攻

其後駿河ヨリ暖ニ成加賀守母ト子ヲ駿河へ人質ニ取り安

藝守ツハ氏真心安ク思ヒ構無之トアリ

○其後加賀守密ニ計リ

○神君告テ曰本意

神君叛ルハ一朝ノ憂ヲ免シテメ質シ駿河へ出シタリ

願クハ寛容シ給ヘト申加賀守其意趣ヲ安藝守ニ告シ

安藝守驚テ曰シ汝我ト同ク此シ

神君ニ告サハルコト我ヲタハカシ似タリトテ加賀守ヲ招テ

刺殺ス

△江馬家ノ書付ニハ此時駿河ヨリ新藤周防守ヲ濱松ノ城代ニ

差越两江馬へ千貫ノ朱印来ル
然ル處安藝守所へ

加賀守シ呼寄ヒ安藝守申ケルハ新藤周防守シ大将トシテ

神君ト一戦スヘキマテアルヲ加賀守同心セサル故安藝守即加

賀守シ切殺ス小野田彦右衛門城へ走り入テ安藝守ヲ討ル

由ナリ大成記ト異ナリ

神君秋山ヲ責久野宗能カ功ヲ賞シ給フ事

○同年武田信玄カ部将秋山伯耆守信友使シ遣メ久野

三郎左衛門宗能シ招ク
其招ニ従ハズ信友怒テ平

尾村ニ出陣シテ久野城ヲ攻ム宗能鼻淵洲ニ據テ是ヲ

防久

六

神君奥平道文菅沼伊豆守菅沼新九郎田岸氏シテ

是ヲ攻シ見付ニ合戦ス秋山勝ニ乘テ進テ濱松ニ入ル

秋山イヨク威シ振フ

神君秋山ヲ責テ曰ク
秋山恐レテ信州ニ帰ル

△此大成記ノ趣不審久野家ノ書付ニ伯耆守平尾ニ陣取タル

時鼻カケ測へ出テモリアヒアリ

神君御出馬ナサルヘキノ旨ヲ聞テ伯耆守陣所シ引拂フ

アリ奥平菅沼等シシテ攻ムコトナシ
奥平傳ニモ甲陽軍

鑑ニ秋山伯耆守遠州北山家勅人質ヲ取シ

神君御覧アリテ伯耆守シ打テ既ニコロスヘキ模様ヲ見

トリ秋山雜兵二千ハカリノ小人数早ク引取信州伊奈(逃入)
アリ三河記ニモ秋山伯耆守遠州北山筋ノ人質ヲ取ツ
神君聞召伯耆守所ハ御使又立ラレ早ク引取(キ由被仰
遣ル)伯耆守信州(遁入)是等實説ナル(シ)を秋山カ遠
州出張謂レキ昔信玄方(モ)被仰遣然ルツ當代記ニ山家三
方衆属信玄秋山ニ伴(キ)出張也引間ノ人数三方原(ハ)出合戦三河
三方衆及合戦引間衆敗北数多被討取サテ引間衆令懇望
秋山ニ味トアリ此當代記ノ説相違ナリ秋山ハ見付遣ニテ来レ
トモ夫龍川ヲ越タルトハ見(ス)若瀨松邊三方原ニテ入来ラハ
神君何(ク)其(ク)サシオキ給ニマ大軍ノ信玄三方原(ニ)通ル(ル)サ(ハ)御

人数打カリタルコトナリ况雜兵二千ノ秋山御方ノ御人数勝タル
討留スレテ御使ヲ遣ハサルコトアルヘキマ當代記ノ説疑ク甲州
家ノ浮説歟——且又甲陽軍鑑ハ信玄家ノ書ニテサ(ハ)秋山利ヲ
得テ瀨松近ク来ルコトナシ然ルツ端此當代記ニ據テ附會スル
ト見(タリ)大成記何ソ甲陽軍鑑三河記ノ説ヲ引用セガルマ不審
大神君出軍遠州事

○永祿二年春正月

大神君懸川ノ城ヲ攻タニハントテ八千餘騎ヲ帥(シ)給テ岡崎
ヲ出サセテ吉田ニ御逗留アリ——諸大將ヲ召軍ノ評定シ
給ニ遠江國ノ繪圖ヲ以テ道ノ難所城ノ要害ヲ御説ア

リテ御人数ノ備ツ定メ給フ一前軍後軍姓名ノ

△此大成記ニ記ス所全ク参遠平均記ノ説ニテ諸記ハ正月遠州

御出陣トハカリナリ又繪圖ノ事御軍評定ノコトアルニジキヨトシ

○此大成記ニ記ス所全ク参遠平均記ニアルハカリニテハ信用シカタク大成記

後之コト不審

○大神若山岡半左衛門植村左衛門ノ御使トシ信玄ノ御遣

サレケルハ氏真懸川ノ城ニ櫛籠ル我一軍ニテ攻落スヘシ

シカシハ最前約束ノ通り太井川ノ界トスヘシ云々

△此御使ハ甲陽軍鑑ニ去年永禄十一年内ニアリ去冬懸川ヲ攻ラシ

ヘキ前ノコトナルヘシ

○今川家ノ大将朝比奈兵衛尉列間ノ城ヲ守ル一正月八日

城ツアケテ懸川ノ城ニ逃入一

大神若石川伯耆守天野三郎兵衛ヲ列間ノ城ニ遣サシ

城内ヲ掃除シ一御陣ヲ移

△此通りナレハ濱松ノ城ノ外ニ列間ノ城ト云ガアリテ朝比奈氏守

リタルトナリ是魁ナル據アリテ當代記ニ

神若元龜元年六月ニ見付ヨリ濱松ニ移リ給ニ先飯尾豊前守

カ古城ニ在城本城普請アリテ惣石垣其上何レモ長屋立ラシ見

付普請被相止是信長之異見ニ依テ如此遠参之輩在濱松

當代記ノ如クナレハ濱松ノ本城ヲ御普請アリタルナリ後風土記ト云

慥ナラセル書ニ引間ノ城ヲ御居城ニ可被成トテ御取立アリテ濱松ト
政ラレトアリ世説ニ相違ナリ古ヨリノ引間ヲ濱松ト云ハズヨリ
前ノ事ト見ヘタリ既ニ大成記是ヨリサキ今川氏真牛久保ヨリ
駿州ニ歸ル夏ノ内ニ濱松初ノ名引間ナリ然レハ濱松城ノ外
別ニ引間城アリタルトテ不審ハ

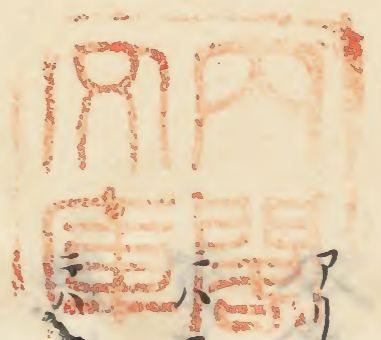
○正月十二日

大神君御下知アリテ諸軍ヲ懸川ノ城外ニ押出ス云宗笠原
與八郎久野三郎左衛門宗能ハ天王山ニ登テ備ヘテ城中
士卒出テ戦フ久野宗能金山丸ヲ攻ケルニ日根野備中守
同弥次右衛門等ツヨク防キケレハ宗能收軍歎ツ云ケレハ

林藤左衛門加藤孫二郎松下新助小林勝之助等討死

△御系因尾張御年譜創業記考異家忠日記増補何レモ正月

十七日御出馬天王山ニ御陣取トアリ大成記ニ十二日諸軍ヲ懸川
城トテ押出スノ事ト別ニ據アル歟但シ十二日ハ傳寫ノ誤ニテ十七日
歟久野宗能金山丸ヲ攻テ合戦ノ事ト是亦今日ノ事トハ見ヘズ
御年譜附尾ニ十八日久野一黨攻口ニ到リ城兵日根野兄弟
魁奮シテ突出テ久野敗北岡崎勢ニ陣ニテ突返シケレトモ敗
軍林藤右衛門加藤弥平次小林庄之助松下新助等踰留リ
合鎗捕首而退味方多以戦死トアリ松平記ニハ正月十六日
掛川城御攻十八日天王山ノ城ヨリ日根野備中守兄弟大將



出合終日セリ合此天王山ノ城ト云コト不審又廿一日廿三日合戦ノコト

アリ云云此十八日合戦ノコト一説ナレトモ不審御年譜創業記考異

二十一日二十二日ノ合戦トアリ此流是十九日次家忠日記増補

二十一日二十三日ノ戦トシテ二十三日ノ下ニ日根野兄弟拒キ

戦ニ御方林藤左衛門加藤孫次郎松下新助小林勝之助戦死

トアリ附尾松平託等ニ信用ニカタシ當代記正月向掛川御

出馬寄衆少キ手負失氣廿日於天王山合戦城衆隨分者

数多討死トアリ此廿日合戦トノコト相違ナレハ此流ニ信用ニ

カタシ故ニ創業記考異ニ二十一日二十二日戦ノ流シ記ス廿日ヨリ

林前ニ戦アリト云ト大成記ノ流右ノ外慥ニ流シ記ス廿日ヨリ

○廿二日掛川城兵天王山へ出ケルシ山家三方衆先陣トシテ

攻タカレシ

○此書此前ニ二十一日早朝ニ久野宗能御陣所へ参テ一類ノ叛心

并掛川ヨリ夜打シ出ス由ヲ申上ケレハ

神君御謀ニテ伏兵ヲ掛川城門ノ側ニ宵ヨリ遣シ置キ案ノ

如ク城中ノ兵出ケルニ伏兵起テ戦ニ今川ノ方夜ノ明ルニテ防キ

廿二日ノ夜城中へ引退ケルシ内藤小坂大久保等城門へ乱入ル

敵兵スキ間ヲ見テ引退門ヲ閉シ敵出ガリケレハ引退キ又ト

アリテ又二十三日城兵天王山へ出タルトハ廿三日ノ朝敵兵戦アリ

入門ヲ閉タルが其日又天王山へ出タル次不審申陽軍鎧ニ氏真ノ

澄文ニ廿一日因崎衆相働天王山へ取詰遂一戦処トアリハ廿一日
夜中城ヨリ出タル敵兵ノコトヲ

神君御陣所天王山へ取詰タルトスルナルヘシ畢竟御年譜創業

記考異ノ如ク廿一日ノ夜ヨリ廿二日迄掛川城外ニ戦ニタルニテ

廿三日ニハ合戦ナキト見ヘタリ源記ハ久野宗統廿一日ノ朝其二局ノ叛心ヲ
神君告ケルヲ廿二日ノコトトスル故ニ一日ノオケ

ニテ廿三日ニ戦
トスルナルヘシ

懸川城陥事

○同三月四日氏真遠州ノ國人ヲ催シ軍ヲ起サシメントス

神君諸軍ヲ出サシ懸川城ヲ圍ミ五日先陣――七日

○西宿ニ戦アリ

御年譜御系図其外三月五日懸川合戦トアリ松平記徳川記ハ

七日合戦トアリ然ルシ大成記ニ五日七日兩日ノ戦トスルコト據アル次

松平記徳川記ハ慥ナラス然レハ五日合戦ノコト是ナラズ次

○大久保甚十郎ハ深手負テ側ニアリケルカ――

△大成記ヲ前永祿十一年三月遠州堀川攻ノ所ニ大久保甚十郎

戦死トアリイカハ

○三月二十七日氣賀ノ堀川ヲ攻タニフ――味方ニモ平井

甚三郎大久保勘七小林平藏大夫等討死

△大成記永祿十一年三月今川カ部將尾藤氏竹田氏山村修理

遠州堀川城ヲ守ル

神君兵ヲ遠州へ出シテ是ヲ改給フ一城中ヨリ鉄炮ヲ放ツ

大久保甚十郎是ニ中テ死ス平井甚五郎相統テ進ミ又鉄炮

其ニ中テ死ス小林平大夫戦死ス松平信一榊原康政戦カケテ

三堀川城遂ニ陥ルトアリ此所ニ又氣賀ノ堀川ヲ改タシテコトアリ

是ハ堀川ヲ改給フハ一度ノコトナルツ大久保甚右衛門三河記ニハ

永祿十二年ノコトトシ同考左衛門三河記ニハ永祿十一年ノコト

大トス两三河記共ニ大久保甚十郎平井甚五郎討死トアリ尤

諸記共ニ十一年或ハ十二年トシテ一度ノコトト見タリ然ルニ御

年譜附尾ニ兩年共ニ堀川攻メコトアリ十一年ノ所ニハ平井

甚五郎大久保甚十郎戦死トシ十二年ノ所ニハ平井甚五郎

戦死大久保甚十郎乍負深手見届諸人働後日為證人トアリ

附尾ハケ様ニ前後相違ノモノナレハ信用シカタクシ大成記十一年ノ

討死ヲ平井甚五郎大久保甚十郎小林平大夫トシ十二年ノ討

死ヲ平井甚三郎大久保勘七郎小林平藏大夫トス是モ同人

ナルヘシ然レハ堀川攻ハ一度ノコトナルツ大成記此所重出ナルヘシ

神君武田ト絶交ノ事

○同年五月

神君一五六百騎ヲ召連ラレ國中ヲ巡見シ給フニ

山懸三郎兵衛景仲三千餘騎ニテ金谷ヲ通りケル路ニテ

出合ケルニ御人数ノスツナキヲ見テ不意ニ撃手ニトシケル

神君路ノハキ所ニ待カテ給ヒ景仲カ兵七八騎討取ケレハ
景仲利ヲ失テテリニケルト信玄ユレヲ聞テ世ノ謗リヲ
シカリ景仲ヲ暫シ追籠ケル云々

△此段不審甲陽軍鑑ニ此時長坂跡部ヲ申ス者ニ付山縣迷惑ニ和田
加助辻弥兵衛ガ乱リ取ノ故ナリトテ兩人ニ番シ付ル信玄ハ山縣ヲ
褒美ニ和田辻モ事故ナリ山縣ノハ江尻ノ城代トナリ山縣ヲ
神君ニ勝タリトスル趣ナリ甲陽軍鑑ハ山縣カ追散ラセタレ
コトヲハ隠シ結句手柄ノ様ニ書スルハ信玄ガ説リヲ受テ書カ
レテ澄トハシカタクコトナレドモ爰ヲ知ラザル信玄世ヲ悼テ山縣ヲ
追籠コトハハルニシキナリ

○神君兵ヲ駿府ニ出シテ守将山縣景仲ヲ攻ム景仲
城ヲ捨テ逃去

△是體ナル記録ニ見ヘズ甲陽軍鑑ニモコレナリコトナリ独リ御年譜

○附尾ノ説ナリ家忠日記増補ニハ

神君兵ヲ駿河ニ送シ山縣ヲ攻撃ニト謀リ給フ山縣府ノ城ヲ
棄テ、免レ去トアリ兩説共ニ體ナラザレハ信用シカタク大成記別
體ナル據アル歟

○甲州勢榛原郡小山ノ城ニ捕籠ル

神君兵ヲ出シテ攻タラ松平真乗軍功アリ

△小山ヲハ天正三年ニ始テ御攻ト見ヘタリ此年御攻ノト請記ニ見

當ラズ不審家忠日記増補ニ今年松平左近真采ニ遠州榛原郡内二千貫ノ地ヲ賜フトアリ大給ノ松平左近大夫系図ニ此年十月祿ヲ遠州榛原郡之内二千貫文ノ地ヲ賜フトアリ並軍功ノコトモナク小山軍ノコトモナシ

卷之八

濱松築城事

○元龜元年春正月山部神君濱松ノ城ヲ築カセラルト一去年正月ヨリ見付城ヲ築カセメ城郭町ワリニテ一一定リケレトモ地形ヨカラヌ處

○時トテ濱松ニ移サレケルト山部神君ノ文ニテ

○當代記ニ去年十二月濱松飯尾ノ故城ニ御入本城御普請アリ

元龜元年六月見付ヨリ濱松ニ御移リ九月十二日本城ニ御移リ
トアリ云々年濱松城ニ御入後見付普請アリテ見付ハ暫ク

御移リアリ元龜元年ノ春見付ヨリ岐阜ニ御越ノ所信長異見
ニ濱松御居城可然ノ由依之同六月見付ヨリ濱松ニ移リ九月

本城ニ移リ給フト見ヘタリ大成記今年四月濱松城御築ニテ
移リ給フト尾張御年譜并家忠日記増補ノ説ナリ前後ヲ考

レ當代記ノ説ヲ用ユキ歟

○今川舊臣小原肥前守花澤城ニ居ケルハ信玄ニ改落サレ
逃出テ小笠原與八郎長忠ヲ頼ミ高天神ノ城ニ行ケルニ長忠

小原ヲ殺シ

△是相違ナリ去ル年永祿十一年駿河ノ三浦右衛門大夫カ馬伏塚頼

行シ小笠原義作是ヲ殺セシコトヲ家忠日記増補ニ大原肥前

ト三浦右衛門ト父子高天神ニテ小笠原与八郎ニ殺サレトアリ是

誤ナリ大原ハ花澤城落去シテ

神若ノ方ニ退シト甲陽軍鑑ニアリ當代記ニ大原ヲ遠州ニ送ルト

アリ三浦右衛門大夫カ殺サレタルハ去ル年ニテ大原カ花澤城ヲ

出タル今年ナリ大原カ殺サレタルコトハナリ

信康君元服事

○同年元龜元年御嫡子信康君十三ニテ給ヒ元服シ岡崎次郎

三郎ト申ヒ奉ル

△信康君ハ此書ニモ諸書ニモ永祿二年未ノ歳ノ御誕生今年午ノ

歳ニハ十二歳ナリ然ルヲ十三歳トハ相違ナリ初年十三歳ニテ

御元服ナリ

今川氏真遠州ニ逃来ル事

○同年元龜元年十月北條氏康卒

△北條系圖ニハ元龜二年氏康卒トアリ

○氏真ニソカニ小船ニ乗リ遠州ニ来リ

神君ヲ頼ル

△此事不審氏真潜ニ濱松ニ来リシハ天正二年ナルコト當代記ニ見

翌年春上洛ニ信長ニ見ヘシト信長記ニ見ヘタリ然ルヲ家忠

日記増補ニ今年氏真遠州ニ来大成記トアリ相違ナルヘシ大成記

○月城天正二年ノ内氏真小田原ヲ去テ濱松ニ来ルトアリコニ今年

氏真遠州ニ来ルトアルハ前後相違ナルヘシ

○同 大神君御任官事

○五月信玄東參河ハ馬ヲ出ス

神若兵ヲ帥ニ馳向ヒ給ヒ一宮ニテ戰アリ小林傳四郎吉

勝御馬ノ前ニテ敵ト組打シテ腕ヲ打落サル

△此事不審一宮ニテ信玄ト御戰事甲陽軍鑑其外ニモ見ヘズ此

○三文ニテハ勝負モ知レズ小林傳四郎が腕ヲ打落サレタルトコトガリ

○天正ハ慥ナラズ外ニ慥ナル據アリ傳四郎更若シ吉田城外合戰ノ内ノコトニテハナキ歟

○此月信長使ヲ濱松ニ来シ申サレケルハ濱松ノ城ハ信玄領國

近ケルハ一岡崎ニ移リ居給ヘカシ云々

△此事甲陽軍鑑ニ見ヘタリ但シ吉田ニテツボミ給ヘカシトアリ此甲

陽軍ノ説不審三河記當代記ニ云年信長ノ異見ニ依テ濱松

本城ニ移リ給フトアリ然ルニ今年又此使アリタル歟疑クハ云

年信長異見アリシコトノ異説歟

卷之九

長篠大捷ノ事

○於是又信昌カ父貞能ヲシテ小栗ト同ク往テ信長ニ告

△是三河記ノ通りナリ當代記ニハ石川伯耆ヲ漆テ被遣トアリ長
篠ノ事ハ奥平家ノ當代記ニ燒フヘキ歟

神君大井城ヲ拔給フ事

○天正四年——水野忠重苦戦シテ敵ヲ却ク

△是家忠日記ノ説ナリ水野傳ニ天正二年大井城ヲ攻メシトテ
御出馬大久保忠世ト水野忠重ト殿ノコトアリ天正四年忠重傳

コトナシ

卷之十

○天正五年——遠州軍并ハル之事

○天正五年

○大神若軍ヲ遠州山梨ニ出し給フ穴山ニシテ拒ク吾軍奮撃
テ破之

△是家忠日記ノ説ナリ外ニ慥ナル證流ルル歟諸記ノ内甲陽軍鑑等

ニ見ヘズ

神君横須賀ヲ築キ勝頼遠州ニ出ル夏

○同年春

大神若城ヲ横須賀ニ築キ大須賀康高ヲシテ己ニ據テ

高天神ノ敵ニ備フ

△此夏諸記ニ四年ノ夏トシ又五年ノ事トシ大須賀傳ニ六年ノ

夏トシ甲陽軍鑑ニ勝頼天正四年ニ遠州ニ出張高天神ノ押ニ

神君ヨリ横須賀ニ城ヲ築キ給フトアリ御年藩モ四年トアリ
然レハ四年ノ説是ナルヘキ歟

○是年三月

大神若駿州ノ舊主今川氏真ツシテ駿州ニ復帰セシメ

○ナシテ

六月六日酒井雅樂正親卒ス

△此二事家忠日記等ニ天正四年ノ内ニアリ在四年ノコト、見ヘ
タリ大成記ニ天正五年ノ末ニアリ不審

神君遠州駿州御出馬遠目坂軍ノ事

○天正八年、七月廿日兵ヲ懸川ニ出シ進テ伊呂崎ニ

陣シテ酒井忠次石川数正本多忠勝等カ前隊ノ士ヲシテ
役徒ヲ護リテ大井河ヲ涉テ田中ノ稻ヲ獲シム廿七日兵ヲ
収テ濱松ニ還リタニ

△諸記ニ七月廿三日石河伯耆守ニ被仰付田中表へ兵ヲ被出サ
四日御人数小山表へ出敵ト相戦廿六日懸川ニテ御帰ノコトアリ

慥ナルコト、見ヘタリ大成記ニコレヲ略スルコトイカバ

木曾義昌勝頼ヲ叛テ織田氏ニ降ル事

○天正十年正月義昌遂ニ勝頼ニ叛ク

神君兵士三万ヲ帥テ駿州ヨリ入セタニ三月四日信長
安土ヲ築

△此間正月十四日

神君濱松ヨリ岡崎へ御越此月濱松へ御帰二月六日酒井

忠次方ヨリ信長甲州へ攻入ラレノ由奉告ノコト大成記略之

ヨトイタ、此外駿州ヨリ甲州ニ至リ給フ内ノ御止宿ヲモ大成記

略之

卷之十一

神君伊賀路ヲ越テ参州歸リ給フ事

○神君——本多平八郎忠勝ヲ京師遣ハシテ謝礼ヲ信長

告シ時洛ノ南茶屋四郎二郎——信長ノ変ヲ告ニタメ

泉堀ニ赴ク途中忠勝ニ逢フ

△此本多ヲ御礼ニ遣ハサレ茶屋途中ニテ本多ニ逢タル況不審

○茶屋カ書付ニハ御帰京ノ御道中枚方ニ御目見仕リ右

京都ノ事言上ストアリ

○神君——京師ニ赴キ信長ノタメニ光秀ヲ討ント——是ニ

於テ諸士鞭ヲ揚テ進ミ出ツ本多諫メテ云

○此変ヲ聞給ヒテ直ニ京ニ入テ御追討アルヘシトノ時并伊本多諫メ

奉ル夫ヨリ伊賀越ニテラニ給フナリ其内ニ諸士鞭ヲ揚テ進ミ

タルコトハアルニジキ歟

○神君ス十八千長谷川ヲシテ郷導オトシテ宇治川ニ至リ給フ

△宇治川ニ至リ給フトハ家忠日記ノ説ナリ誤ナルヘシ枚方ヨリ伊賀

○越ト云路アリ宇治ヘカ、ルヘキヤウナシ方角違ヒナリ是木津川

コトナルヘシ宇治川ハ古ヨリ橋アリ木津川ハ舟渡シナリ是ヨリ

江州信樂ヘ出給フナルヘシ

○山岡美作守景隆ノ勢多ヨリ馳來テ道守キ奉ル

△此時勢多ヲ御通ニテハアルベカラズ此時山岡ハ勢田ヨリ近江路

○縣ノ御路筋ヘ出テ御供シタル次但山岡ハ事慥ナル書付ヲ見ズ

○神智光秀誅戮ノ事

○神君義兵ヲ起シ岡崎ヲ發シ清洲ニ至リ給フ

△清洲ニ至リ給フトノ変異説ナリ當代記御系図御年譜其外

何レモ鳴海ニ御居陣ノ内ニ秀吉ヨリ汪進アリ則御歸陣トナリ

大成記異説ニ後ヲト不審

神君甲州ヲ鎮メ給フ事

○州民佯テ川尻ニ告テ曰ク

神君本多百助ニ命シテ汝ヲ誅伐セシムト川尻疑心ヲ懷

テ——本多ヲ殺ス

△諸説何レモ川尻始ヨリ疑ヒテ本多ヲ殺シタル趣ナリ州民佯テ

川尻ニ告タルトノ説不審川尻既ニ本多ヲ殺シタル時州民起テ

○川尻ヲ殺シタルヲ以テ見レハ州民ハ

神君ハ服スル心アリタルト見ヘタリ然レハ佯リ告ルコトハアルニキ次

忠次忠世音骨ヲ引退事

○忠次忠世康高廣孝一三千餘騎ヲ率テ音骨ニ屯ス氏直カ大軍ト僅ニ一里ヲ隔ツ我兵大軍ニ敵シカクモシテ慮テ軍ヲ退シ氏直カ兵士山ニ隨テ是ヲ追フ六將或返シ戦ニ或引退シ合戦十餘回小田原ノ士卒急ニ是ヲ敗ルコト能ハスシテ甲州ニ皈ル

○此操引リ合戦十餘回トノコト相違ナレハ三河記家忠日記御年譜等ニ氏直大軍ヲ率シテ暮ニ来ル六將返シ合セテ敵ニ向フ事十餘度北條其勇ニ恐レテ急ニ撃ツトアタハズトアリ然レハ合戦ハナキト見ヘタリ創業記考異ニ一北條氏直数万軍勢ヲ率ヒ来ル御先テ三千餘新府ニ帰ル所敵大軍暮ニ来ル故御方ノ兵及メ戦ヲ挑トイヘトモ敵近ツク事ヲ不得時ニ

神若古府中ニテ是ヲ聞召暫時ニ新府ニ馳着給フアリ此況能ナルコト、見ユ

小田原勢古府ニテ敗北スル夏

○元忠清宗勝成康貞古府ヨリ二千餘騎ヲ率テ急ニ氏直カ陣ヲ攻ム云云小田原ノ兵士四方ニ離散スルヲ以テノ故ニ防キ戦フコトヲ得ズ乱レ破レテ敗績ス

△創業記考異ニ此時

神若新府ニ陣煙ヲ見給ニ御方打勝タリト云ヒカ果シテ

瑞將捷ヲ奉告云々此事慥ナル事ト見ユ大成記之ヲ略スルコトイカ

○豆生田合戦ノ事

○氏直嘗ツ豆生田ニ築テ兵士ヲメ之ヲ守ラシム味方ノ兵未ツ刈捨ハタメニ豆生田ニ出張ス敵兵急ニ是ヲ撃テ殆ト危シ

○又世三四郎フミ留テ防キ戦フ

神君事ノ危ツキ、玉ヒテ自ラ兵士ヲ率テ是ヲ援ケ玉フ

△此條豆生田ノ戦大成記ノ如クハ瑞家之ヲ輕ク記スヘキマウナシ殊

神君御出アリシトノコトハアリ事トシキコトナリ家忠日記御

年譜等ニ御方ノ兵刈田ニシ敵豆生田ノ岩ヨリ出テ拒キ

戦フ御方ノ兵之ヲ追討テ豆生田ノ岩ヲ破ルトアリ御方危キ

コトモ見ヘス

神君御出ノコトモナシ大成記慥ナル據アルト見ヘタリ然レトモ

諸記ニ見ヘサル故不審

依田右衛門岩村田ノ城ヲ攻落ス事

○神君兵ヲ率テ筑摩河上岩村田ノ城ヲ攻

△諸記ニ岩村田ノ城ヲハ依田信蕃真田等是ヲ攻トモアリ又

御方ノ軍勢攻之トモアリ

神君御出陣ノコトナシハ御出陣アルヘキ程ノ敵ニアラス大成記

不審

神君井伊直政ヲ先鋒トシ玉フ事

○神君井伊万千代ヲ登ケ用テ御先手ノ大将トシ采地畀石
玉ニ甲州ノ勇士七十餘人関東ノ名アル者四十三人ヲ部屬トシ
且其兵器皆赤色ヲ用ユヘシト云云

△是ハ天正十一年二月廿八日ノコトナル由直政ニ被下軍法ノ書見ヘ
タリ大成記ニ天正十年ノ末ハ出スコトイフ

卷之十二

上杉合戦依田信蕃兄弟戦死ノ事

○同年^{天正十二年}二月柴田七九郎——小室岩尾ノ兩城ヲ攻ム依田
信蕃其弟伊賀守信幸善九郎信春ト共ニ田口ノ城ノ上ニ
登テ急ニ岩尾城ヲ攻ム時ニ信蕃兄弟銃矢ニ中リ晚ニ

○及テ兄弟皆死

△此大成記ニ信蕃兄弟皆死トノ事家忠日記ノ趣ナリ依田傳ハ
信蕃并弟源八郎鉄炮ニ中リテ死ストアリ善九郎ハ打死ノ
コトナク太刀手負タルトアリ又田口ノ城ノ上ニ登テ急ニ岩尾城
ヲ攻ルトノコト不審依田傳ニ二月廿日信蕃柴田七九郎田口城ニ
入テ佐久郡ヲ見テ信蕃柴田ニ溜ケルハ小室岩尾未タ味方ニ
屬セズ明日岩尾城ヲ屠ントテ廿二日岩尾城ヲ攻トアリ然レハ
田口ニ入りシハ廿日ナリ廿二日岩尾城ヲ攻ル時モ田口城へ登リ
タル歟不審

○神君茶壺ヲ羽柴秀吉ニ贈リ給フ事

○同年^{天正}四月——江州志津嶽合戦

神君小栗又六^シ遣メ秀吉^ヲ勞尙シ——自ラ兵^ヲ率テ濱松^ヲ奔シテ江州ニ至リ給フ時勝家敗北討死スト聞給フ濱松ニ歸給

△此事相違ナルヘシ諸記共ニ今年江州ヘ至リ給フコトナシ大成記ニ趣ハ秀吉ヘ御加勢ノ様ナリ右左様ニハアルニシキコトナリ論記共ニ神君四月甲州ヘ御越五月濱松ヘ御歸ナリ又小栗又六^ヲ秀吉ヘ被遣タルコトモ慥ナル據アルカ不審

△神君叙位任官ノ事

○天正十二年正月

神君参議ニ任シ從三位ニ叙シ給フ秀吉ノ執奏ニ依テ也

△此秀吉執奏ノコト相違ナラシ歟大成元慥ナル據アル歟不審カ
論記ニナキコトナリ

神君陣ヲ小牧山ニ移シ給フ事

○神君榊原康政ガ勸メ請ニ依テ羽黒ノ陣營ヲ小牧山ニ移シ給

△羽黒ノ陣營ヲ小牧ヘ移シ玉フトコト不審

○神君十五日清洲ヨリ小牧山ヘ御出テ武藏守カ羽黒ニ陣取タルシ十七日御方ノ兵撃破リタリ然レハ羽黒ハ其前ニ森カ陣所ナレハ羽黒ヨリ御移リアルヘキ様ナシ清洲ヨリ直ニ小牧山ヘ

御移リト見ヘタリ

○夜ニ及テ味方ノ兵長一カ軍ヲ劫ス長一カ軍中驚キ騷シ
長一深ク以テ耻トシ戦死セテ是ヲ雪ント欲ス

△諸記共ニ廿八日夜ニ入テ味方ノ兵敵ノ柵ヲ破リ鉄炮ヲ発シテ
是ヲ劫ストアリ長一カ陣所ヲ劫シタルニハアラス長一カ恥ト
シテ戦死セト欲シタルニ當代記ニ羽黒ニテノ敗軍ヲ無念ニ
存シ可討死ト思定メケルトアリ然レハ大成記ノ訖不審

長久手合戦ノ事

○同月九日ノ夜

神若藤木ノ告ヲ聞給ヒテ
御身自ラ大須賀康高

一隊榊原康政ノ一隊本多康奎カ一隊水野忠重カ一隊
岡部長盛カ一隊及ヒ信雄ノ軍士丹羽勘介カ一隊合テ六
隊ノ兵ヲ率テ潛ニ出陣シ給ヒ晚ニ及テ小幡ニ到ル

△藤木ノ告ヲ聞給フハ八日ノ事ナリ故ニ其晚ヨリ御先手ヲ
出サレ大成記ニ九日ノ夜トスルハ誤ナリ且又大成記ニ九日ノ夜
藤木ノ告ヲ聞給ヒ晚ニ及テ

神若小幡ニ到リ給フトハ此内ニテ前後相違ナリ又大須賀
榊原水野岡部等ハ御先手ナリ

神若御先手ヲ御引率アリシトノコト不審又家忠日記ニ

神若四月八日ノ申刻ニ御出陣所ノ刻ニ小幡ノ告ニ到リ給フ

是日黄昏、岡部、榑原、水野、大須賀、本多、丹羽、小牧ヲ斃シテ

小幡ノ城ニ至ルニ是ノ況モ亦不審、御先手、御後ヨリ出陣

スヘキ様ナシ、御年譜ニ八日晚景、公使水野、本多大須賀、丹羽

岡部等、蹶秀次之跡、而後、公亦發兵トアリ、將軍家譜ニモ

御先手ノ諸將ヲ御先被遣ル趣ナリ、其外ノ況ニモ此時御

先手ハ八日ノ晚小牧山ヲ打立、其夜ノ戌ノ下刻ニ小幡ニ着陣

神若ハ夜ニ入テ潛ニ御出馬トアリ、此況是ナルヘシ

○十日ノ早曉、勝入カ前鋒、伊木氏片桐氏二千餘騎ヲ率テ

岩崎城ヲ攻

△是ノ九日ノ早曉ナリ、十日ハ長久手御陣ハ九日ナルコト

○御書ニモ明白ニテ、最諸記九日トアリ、然ルヲ大成記十日ノ事ト

スルコト怪ムヘシ

○水野忠重カ弟、藤十郎勝成、三好カ隊長、白井備後ヲ斬

△水野勝成自記ニ、白井備後ト名乗、突掛ル勝成手前ニテ、突

崩シ其場ニテ一番首ヲ取云、家忠日記ハ勝成、白井カ從

卒ヲ討取トアリ、大成記ニ、白井ヲ斬トハ相違

○神若勝川ニ至リ、御鎧ヲ著シ給フ勝川ノ名ヲ聞給ヒテ

吉兆タルコトヲ悦ビタニ

△長久手土俗ノ説ニ、勝川御馬立山ナドハ御勝利ノ後ノ名ナル

○由ナリ、然レハ勝川ノ名ヲ聞給フトハ不審

○或説曰此役ニ勝入必死ヲ決メ手自ラ鎗ヲ投テ進ミ戦フ

△安藤直次カ覚書ニ勝入牀ルニ腰ヲ懸アリシ所ハ直次突懸

吉リケレハ勝入見テセカレメト言リ立アカル所ヲ突倒シケル時ニ

○後永長田傳ハ井右近掛来テ首ヲ取トアリ

○神君凱歌ヲ唱テ大久保次右衛門渡邊忠左衛門等

斬獲スル所ノ首ヲ點檢セシム此後小幡ハ御歸ナリ

△此事將軍家譜并渡邊傳ニ小幡城ハ入給ヒテ守綱忠佐ニ

○コトハナシ水軍士ノ甲シヲ淺セシメラルトアリ兩人長久手ニテ首ヲ點檢ト

○永井直勝勝入カ弁及其刀麾ヲ献ス

神君大ニ喜テ直政直勝ニちシ賜フ

△是ヲ家忠日記ニ直勝直次ニ御ちニ賜ルトアリテ直政ハナシ

大成記直次ヲ直政ト書アマニル然但し直政直次傳ニ此事見

ヘバ



○或說曰此役之勝入必死之決

△安藤直次郎之書云春大谷山

吉野山

神皇正統記

神皇正統記卷之四

新編神皇正統記

新編神皇正統記卷之四

新編神皇正統記卷之四

新編神皇正統記卷之四

新編神皇正統記卷之四



